

## 家庭礼拝ガイド 365 日－6月

日付	聖書箇所	中心聖句	テーマ
6/1	Ⅱ列王記 5:1～14	Ⅱ列 5:14	将軍ナアマン
6/2	Ⅱ列王記 6:8～23	Ⅱ列 6:16	火の馬と戦車
6/3	Ⅱ歴代誌 29:1～29	Ⅱ歴代誌 29:1	先ず第一に
6/4	Ⅱ歴代 34:1～33	Ⅱ歴 34:33	ヨシヤ王
6/5	エズラ 1:4	エズラ 1:4	残る者の務め
6/6	エズラ 3:8～13	エズラ 3:11	エズラ
6/7	ネヒヤ 2:1～20	ネヒヤ 2:4, 5	城壁再建
6/8	ネヒヤ 8:6	ネヒヤ 8:6	主を礼拝
6/9	エステル 4:4～17	エステル 4:14	この時のため
6/10	ヨブ 1:21	ヨブ 1:21	主は与え、主は取られる
6/11	ヨブ 40:15～24	ヨブ 40:15	河馬
6/12	ヨブ 42:1～17	ヨブ 42:2	試練と祝福
6/13	詩篇 1:2, 3	詩篇 1:2, 3	主の教えを喜びとする
6/14	詩篇 4:8	詩篇 4:8	平安な眠り
6/15	詩篇 23 篇	詩篇 23:1	主は羊飼い
6/16	詩篇 34:1	詩篇 34:1	いつも主への賛美
6/17	詩篇 37:5～6	詩篇 37:6	真昼のように輝く
6/18	詩篇 62:1～2	詩篇 62:2	神こそわが岩
6/19	詩編 90:10～17	詩編 90:10	知恵の心
6/20	詩篇 100:1～5	詩篇 100:5	主はいつくしみ深い
6/21	詩篇 103:1～5	詩篇 103:2	主の良くして下さった事
6/22	詩篇 119:9	詩篇 119:9	自分の道をきよく保つ
6/23	詩篇 119:105	詩篇 119:105	みことばは足のともしび
6/24	詩篇 119:65～72	詩篇 119:71	苦しみに会った事は
6/25	詩篇 121:1～8	詩篇 121:1	私の助けはどこから
6/26	詩篇 128:1～6	詩篇 128:1	主を恐れる人の祝福
6/27	詩篇 133:1～3	詩篇 133:1	一つになって共に住む事
6/28	詩篇 139:1～24	詩篇 139:24	とこしえの道に・・・
6/29	箴言 1:7, 8	箴言 1:7	主を恐れることは知識の初め
6/30	伝道者の書 4:9～12	伝道者の書 4:12	三つ撚りの関係

6月1日

## テーマ：「将軍ナアマン」

聖書箇所：Ⅱ列王記5章1節～14節

### ◆今日のみことば

そこで、ナアマンは下って行き、神の人の言ったとおりに、ヨルダン川に七たび身を浸した。すると彼のからだは元どおりになって、幼子のからだのようになり、きよくなった。Ⅱ列王記5：14

### ◆メッセージ

「こんなこと絶対にありえない」「あんなこと絶対に無理だよ」そのように思うことがあると思います。その時、私たちはどうするでしょう。あきらめたりしますか？それともあきらめず、神さまを信じますか？

アラムの将軍ナアマンさんは大変な病気になってしまいました。その時、「サマリヤにいる預言者のところに行かれたら、きっと病気を直してくれますよ」という話を聞きました。その話を聞くとナアマンさんはさっそくその預言者、エリシャさんのところに出かけていきました。「きっと病気を直してくれる。病気のところに手を置いて、お祈りしてくれる

に違いない」と思って、エリシャさんのところに出かけていきます。しかしエリシャさんからの返事はこうでした。「ヨルダン川へ行って7回、からだを洗いなさい。そうすればあなたのからだはよくなりますよ。」その話を聞いたとき、ナアマンさんは怒りました。「エリシャさんが祈ってくれると思ったのに、川で洗いなさいとはどういうことだ。」そのように思って、ナアマンさんは帰ろうとします。その時、ナアマンさんの家来たちは

「将軍。あなたは、エリシャさんがむずかしいことを命じたら、それをしたでしょう。でも、あの人は、からだを洗いなさいと言っただけではありませんか。」と言って、ナアマンさんを説得しました。その言葉を聞いたナアマンさんは、エリシャさんに言われた通り、ヨルダン川で体を洗いました。するとどうでしょう。ナアマンさんのからだは元通りになり、病気が直ったのです。その病気を神さまが直してくださったのです。

ナアマンさんは、はじめ、川でからだを洗ったくらいで病気が直るなんてありえない、と勝手に決めて神さまに従いませんでした。私たちもナアマンさんと同じように、「そんなこと無理だよ」と思うことがあるかもしれませんが、けれども神さまには、私たちがあきらめってしまうようなこともお出来になるということをおぼえて、神さまのことを信じていきましょう。神さまを信じるというのは、神さまのお言葉の通りになることです。

### ◆お祈り

「どんなに無理だとも思うことでもお出来になる神さまのことを信じて、したがっていくことができますように。」

(松戸福音教会牧師 山田契実)



6月2日

テーマ：「火の馬と戦車」

聖書箇所：Ⅱ列王記6章8節～23節

◆今日のみことば

すると彼は、「恐れるな。私たちとともにいる者は、彼らとともにいる者よりも多いのだから」と言った。Ⅱ列王記6：16

◆メッセージ

イスラエルの国がアラムの国と戦っていた時代のことです。アラムの王様は家来たちと相談をして、イスラエルの王様をまちぶせして何度も殺そうと計画しました。しかし、神さまの預言者であるエリシャさんが王様に危険を知らせたので、アラムの王様の計画はすべて失敗し、イスラエルの王様はいつも守られました。自分の計画がいつも失敗する原因が神さまの預言者の仕業だと知ったアラムの王様は、エリシャさんがいるドタンという町にたくさんの軍隊を派遣し、夜の内に小さな町を完全に包囲してしまいました。

朝起きてみると、町の人たちはびっくりしました。自分たちの町が大勢のアラムの軍隊で囲まれていたからです。恐くなったエリシャさんの弟子が、エリシャさんに助けを求めると、エリシャさんはその人に「恐れなくても大丈夫です。私たちと一緒にいる者たちは、この町を包囲している軍隊よりも多いからです。」と言いました。エリシャさんがお祈りすると、エリシャさんのお弟子さんは神さまが送ってくださった大勢の火の馬と軍隊を見ることができるようになりました。その軍隊にエリシャさんが命じると、町を取り囲んでいたアラムの兵士たちの目は見えなくなりました。目の見えなくなった兵士たちはサマリアという大きな町の真ん中に連れてこられました。エリシャさんがもう一度お祈りをすると、目の見えなくなった兵士たちの目が再び見えるようになりました。エリシャさんはイスラエルの王様に命じて、捕らえた兵士たちにパンと水を与えて、彼らの国に返してあげました。それからというもの、アラムの兵士たちがイスラエルの国に攻めてくる事はなくなったそうです。



私たちが困ったことが起こると、エリシャさんの弟子のように恐ろしくなることがあるでしょう。神さまは私たちの目には見ませんが、いつも私たちと共にいてくださり、神さまに信頼する人々を守ってください。だから困ったときには、神さまに助けをくださいと祈り、神様を信じていきましょう。

◆お祈り

「神さま、あなたは目には見えませんが、いつも私たちを守ってくださっている事を感謝します。あなたがいつも共にいて助けてくださる事を信じていけることができますように。」

(行徳キリスト教会牧師 山本真仕)

6月3日

テーマ：「<sup>ま</sup>先<sup>だいいち</sup>ず第一に」

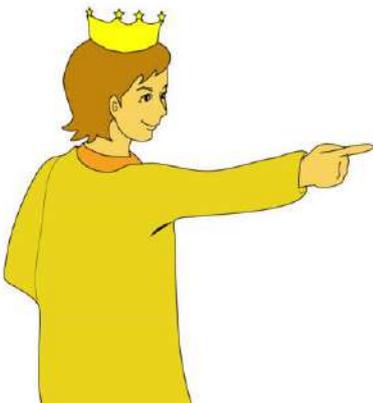
聖書箇所：Ⅱ歴代誌<sup>れきだいし</sup>29章<sup>しょう</sup>1節<sup>せつ</sup>～29節<sup>せつ</sup>

◆今日のみことば

ヒゼキヤは<sup>にじゅうごさい</sup>二十五歳<sup>おう</sup>で王となり、エルサレムで<sup>にじゅうきゅうねんかん</sup>二十九年間、王であった。彼の母の名は<sup>かれ はは な</sup>アビヤといい、ゼカリヤの<sup>むすめ</sup>娘<sup>れきだいし</sup>であった。Ⅱ歴代誌29：1

◆メッセージ

自分の<sup>じぶん</sup>周り<sup>まわ</sup>の人々に<sup>ひとびと</sup>起こった<sup>お</sup>悲しい<sup>かな</sup>出来事<sup>できごと</sup>がおきた時、どうしてそのようなことが起こってしまったのか、と<sup>かんが</sup>考えてしまったことはありますか。南ユダ王国の王様であったヒゼキヤ王は、北イスラエルがアッシリアによって<sup>ほろ</sup>滅ぼされてしまうのを目にしていました。そして、イスラエルがアッシリアによって<sup>ほろ</sup>滅んでしまった理由<sup>りゆう</sup>は、北イスラエルの王様たちとその民が<sup>な</sup>なんでも<sup>つみ</sup>罪を犯したので、神さまが<sup>いか</sup>お怒りになったからだとわかりました。北イスラエルだけではなく、南ユダにも神さまの御怒りのゆえ、<sup>きび</sup>厳しいさばきが<sup>ちか</sup>近づいていました。神さまは、<sup>なんど</sup>何度も<sup>よげんしゃ</sup>預言者を送って、<sup>く</sup>悔い<sup>あらた</sup>改めるように<sup>おし</sup>教えていただきました。神さまは、<sup>かみ</sup>神さまだけを<sup>かみ</sup>主として<sup>しゅ</sup>礼拝することを<sup>もと</sup>求めておられます。



ヒゼキヤ王は、王の仕事として一番大切なことは、神さまに<sup>したが</sup>従うことだと<sup>かんが</sup>考えました。だから、まず、<sup>しゅ</sup>主の宮を整えることから<sup>はじめ</sup>始めました。神さまを<sup>かみ</sup>礼拝する主の宮に、<sup>お</sup>偶像が置かれていたからです。神さまのものも、<sup>にんげん</sup>人間のものも<sup>くべつ</sup>区別なく<sup>あつ</sup>扱われていました。神さまに対する<sup>おそ</sup>恐れがありませんでした。ヒゼキヤ王はそのため<sup>ぐたいてき</sup>具体的に<sup>と</sup>取り組みました。神さまのものを<sup>くべつ</sup>区別し、神さまが<sup>めい</sup>命じられたように<sup>とと</sup>整えました。

そして、<sup>つみ</sup>罪のための<sup>いけにえ</sup>いけにえを<sup>かみ</sup>ささげました。神さまに<sup>つみ</sup>罪を告白して、<sup>もと</sup>ゆるしを求めました。続いて、<sup>つづ</sup>レビ人は<sup>びと</sup>楽器を<sup>がつき</sup>手にして、また<sup>さいし</sup>祭司たちは<sup>ら</sup>ラッパを手にしてそれぞれ、<sup>かみ</sup>神さまの前で<sup>まへ</sup>礼拝しました。ヒゼキヤ王は、<sup>お</sup>南王国の民とともに<sup>つみ</sup>罪を<sup>く</sup>悔い<sup>あらた</sup>改め、神さまに<sup>したが</sup>だけ<sup>すがた</sup>従う姿を<sup>あら</sup>表わしました。



<sup>つみぶか</sup>罪深さを認め、イエス・キリストを<sup>しん</sup>信じる<sup>しんこう</sup>信仰によって、<sup>ちち</sup>父なる神さまへ<sup>かみ</sup>立ち返りましょう。神さまへの<sup>かみ</sup>礼拝は、そこから<sup>はじめ</sup>始まります。父なる神さまの<sup>かみ</sup>御前で<sup>く</sup>悔い<sup>あらた</sup>改め、<sup>いの</sup>祈り、そして<sup>れいはい</sup>礼拝を<sup>かみ</sup>ささげましょう。いつも、どこでも神さまは<sup>れいはい</sup>礼拝される<sup>かた</sup>べきお方です。

◆お祈り

「いつでも神さまを<sup>おも</sup>思い出し、<sup>く</sup>悔い<sup>あらた</sup>改め、神さまに<sup>かえ</sup>立ち返ることが出来ますように。」

(市川福音キリスト教会牧師 李到玄)

6月4日

テーマ：「ヨシヤ王」

聖書箇所：Ⅱ歴代誌34章1節～33節

◆今日のみことば

ヨシヤはイスラエルの全地から、忌みきらうべきものを除き去り、イスラエルにいるすべての者を、その神、主に仕えさせた。Ⅱ歴代誌34：33

◆メッセージ

あなたは今、何才ですか。ヨシヤさんは8才で王になりました。私たちがいう小学2年生くらいですが、大人の人といっしょに国を治めなければなりません。そうは言っても、ほとんどのことは大臣たちがやってくれます。それで、ヨシヤさんは、王として子どもの自分ができることは何かを思い、神さまを信じ従うことに導かれました。ヨシヤさんは15才のとき、ダビデ王も信じていたまことの神さま、主を自分で求め始めました。



神さまを信じて回りを見わたしますと、なんと偶像（手などで作った神）の多いことでしょうか。ヨシヤさんは何年もかかって偶像を取り除き、偶像に仕えている祭司をやめさせました。また気づいたのは、主の宮（私たちがいう教会）がいたんでいたことです。ヨシヤさんは主の宮を修理させました。民がしっかり働いてくれたので、ヨシヤさんはうれしかったですよね。



この修理のとき、祭司のヒルキヤさんが主の律法の書（私たちがいう聖書）を見つけました。偶像礼拝のため、長いこと読まれていなかったのです。ヨシヤさんは律法の書を読み聞かされて、わかりました。私たちは神さまの教えからずいぶんはずれていると。ヨシヤさんは恐れを感じて、自分の着ている服を引き裂いたほどでした。聖書によらなければ、神さまのみこころからずれてしまいます。そして、ずれていることにも気づけなくなってしまいます。聖書によって、何が正しいことか、自分がどんな状態なのか、わかるのです。

女預言者フルダが言いました。「主はこう仰せられる。見よ。わたしは、この場所（エルサレム）とその住民の上にわざわいを起こす。」でも、主を信じ、従っているヨシヤ王に対しては、「あなたが生きている間はわざわいは見ない」と言いました。ヨシヤ王は民を導き、偶像を除き去り、主に仕えさせました。

私たちがヨシヤ王のように、子どものときも大人になっても、イエスさまを信じ、従い、イエスさまから離れないでいましょう。

◆お祈り

「神さま。イエスさまを信じて、ヨシヤ王のように、聖書に書いてある神さまの教えを守り、行い、イエスさまから離れないように、守ってください。」

（馬込沢キリスト教会牧師 山本進）

6月5日

テーマ：「<sup>のこ</sup>もの<sup>つと</sup>残る者の務め」

聖書箇所：エズラ記<sup>しょう</sup>1章<sup>せつ</sup>4節

◆今日のみことば

残る者はみな、その者を援助するようにせよ。どこに寄留しているにしても、その所から、その土地の人々が、エルサレムにある神の宮のために進んでささげるささげ物のほか、銀、金、財貨、家畜をもって援助せよ。 エズラ記1：4

◆メッセージ

ペルシヤのクロス王は、イスラエルの人たちに向かって言いました。「自分たちのふるさとの国イスラエルに帰って、そこで神さまを礼拝する宮を建てなさい」。それはイスラエルから遠い国に連れて行かれてしまっていた人たちにとって、とてもうれしい知らせ



でした。でも、イスラエルに帰るためには、とても暑いさばくを超えてはるばる歩かなければなりません。道の途中で危険な動物がおそってくるかもしれません。お年寄りや小さな子どもにはとても難しい旅でした。また、遠い国に来て商売がうまくいったので、ふるさとは帰り

たくないと思う人もいたのです。

そこでクロス王は言いました。「イスラエルに帰らずにこの国に残りたいと思う者はみんな、帰る人たちを援助しなさい。」つまり、もしこの国に残りたいと思う人は、帰る人たちのために旅のお金をあげて、無事に帰れるように助けてあげなさい、ということです。神さまの働きのために出て行く人だけでなく、残って生活を続けながら出て行く人を助ける人もいます。どちらの人

も必要なのです。  
私たちはどうでしょうか。みなさんは、遠い国に行き、神さまを宣べ伝え、そこに教会を建てる宣教師の先生がいることを知っていますか。またみなさんの周りには牧師先生も、神さまの働きのために出て行って人生をささげた人たちです。そのように神さまの働きのために出て行った人たちのことを、残った私たちは支えましょう。私たちは宣教師や牧師先生のために祈りすることができます。また献金をすることもできます。出て行った人、残っている人、みなさんの務めによって神さまの働きは進められていくのです。

◆お祈り

「神さまのお働きをするために出て行った人たちのために、仕えることができますように。」

(世田谷中央教会牧師 小川真)

6月6日

テーマ：「エズラ」

しょう せつ せつ  
聖書箇所：エズラ記3章8節～13節

◆今日のみことば

そして、彼らは主を賛美し、感謝しながら、互いに、「主はいつくしみ深い。その恵みはとこしえまでもイスラエルに」と歌い合った。こうして、主の宮の礎が据えられたので、民はみな、主を賛美して大声で喜び叫んだ。」エズラ 3:11

◆メッセージ

バビロンからエルサレムに戻って来て、約7ヶ月が過ぎた頃のことです。いよいよ、まちにまった日がやって来ました。神の宮を立てるための材料がそろったのです。でも、材料がそろっても、きちんと指導する人がいないと建物は建てられません。そこで、ゼルバベルさんやヨシュアさん、祭司とレビ人たちは、主の宮の工事を指揮するために、20歳以上のレビ人たちを立てました。彼らは心をひとつにして、工事を指揮しました。



神さまを礼拝するための宮を作ることができるというのは、どんなにうれしかったでしょうね。こうして、まず、主の宮の土台が完成しました。神さまのために奉仕すると、みなで喜ぶことができます。若者も、お年寄りも。このとき、祭司はラッパを持ち、レビ人たちはシンバルを持って、神さまを賛美するに出てきました。そして、「主はいつくしみ深い。その恵みはとこしえまでもイスラエルに」と、心から神さまを賛美し、感謝をささげました。イスラエルの人々もみな、大声で喜び叫びました。ところが、昔の大きな宮を見たことがあるお年寄りたちは、これを見て大声で泣き始めました。どうして泣いたのでしょうかね。もしかしたら、自分たちが神さまの言うことに聞き従わなかったために宮が壊されてしまったことへの悔い改めの涙だったのかもしれませんが。こうして、宮の土台ができた時、喜びの声と悲しみの声がまざりあい、その声は遠くまで聞こえました。

私たちの毎日の生活にも喜びや悲しみがおとずれます。でも、どのような時にも、神さまに賛美すること、また、感謝をささげることを忘れないでいましょう。なぜなら、神さまはどんな罪も赦してくださる愛に満ちたお方であり、私たちに毎日たくさんの恵みを与えてくださるお方だからです。今日、神さまからどんな恵みをいただいたのでしょうか。そのことを思い出し、その恵みに感謝をささげましょう。

◆お祈り

「どのようなときにも、神さまにかんしゃとさんびをささげることができますように」

6月7日

テーマ：「じょうへきさいけん城壁再建」

聖書箇所：ネヘミヤ記2章 しょう1節～せつ20節

◆今日のみことば

すると、王は私に言った。「では、あなたは何を願うのか。」そこで私は、天の神に祈ってから、王に答えた。「王さま。もしもよろしくて、このしもべをいれてくださいますなら、私をユダの地、私の先祖の墓のある町へ送って、それを再建させてください。」

ネヘミヤ2：4，5

◆メッセージ

ネヘミヤさんの時代、イスラエルの人々は他の国に捕らえ移されていました。しかし、神さまの約束の通りに彼らが国に帰る日が来たのです。ところが、先に帰った人々の話を聞いたネヘミヤさんは悲しくなりました。それは国が滅ぼされる時に崩された城壁は崩れたままであり、門は焼かれたままであったからです。



ネヘミヤさんは主に祈りました。きっとその祈りは「もう一度城壁を建てさせてください」と願った祈りだったでしょう。またそれと同時に、自分がそれをするべきかどうかの答えを聞かせてくださいという祈りだったでしょう。神さまはその祈りに答え、王さま

の許しも、城壁を建てるのに必要なものも備えてくださいました。ネヘミヤさんたちはエルサレムに帰り、城壁を建て直すことができるようになりました。しかし、実際に目にしてみると、それは大変な仕事だったのです。

私たちは、自分には出来るかなと思うような大きなことが目の前にくるとどうするでしょうか。あきらめてしまったり、投げ出してしまったりしないでしょうか。私たちの教会では昨年新しい教会堂の建築をしました。実際に動き出してみると、時間のこと、お金のこと、私たちには出来ないと思ってしまうようなことが次から次に起こってきました。その時、「神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行なわせてくださるのです。」という御言葉（ピリピ2章13節）を神さまはくださいました。神さまが「事を行なわせてくださる」、信じて進んで行った私たちの前に神さまは大きな御業をあらわしてくださいました。



ネヘミヤさんもそうです。「天の神ご自身が、私たちを成功させてくださる。」と信じて、城壁再建をするという大きな働きにチャレンジしていったのです。私たちも、成功へといつも励まし、導いてくださる神さまがおられることを信じて、歩んでいきましょう。

◆お祈り

「神さま、あなたがすべきことを教えるだけでなく、成功へと助け、導いてくださることを信じる信仰を与えてください。」

(衣笠中央キリスト教会牧師 三浦峰人)

6月8日

テーマ：主を礼拝

聖書箇所：ネヘミヤ記8章6節

◆今日のみことば

エズラが大いなる神、主をほめたたえると、民はみな、手をあげながら、「アーメン、アーメン」と答えてひざまずき、地にひれ伏して主を礼拝した。

ネヘミヤ記8章6節

◆メッセージ

今日の箇所は、イスラエルの民が神さまに礼拝をささげている場面です。この時のイスラエルは自分たちの罪のせいでバビロンという国に滅ぼされ、それまであった神さまの神殿も壊されてしまっている状況でした。それで、もう一度神殿を建てたいと思っ



て、みんなで頑張りました。ネヘミヤさんも協力して何とか城壁まで建てましたが、周りの民からじゃまされ、人々の考え方の違いによって神殿そのものまでは建てられていませんでした。そこで民は、律法(聖書)の専門家であるエズラさんに律法を読んでもらい、その意味を教えてもらいました。律法はモーゼさんを通してイスラエルの先祖たちに与えられていましたが、その時のイスラエルの民はその律法をよく理解していませんでした。その律法を初めて理解できたのです。8章8節には「彼らが神の律法の書をはっきりと読んで説明したので、民は読まれたことを理解した。」とあります。律法(聖書)を理解することによって、イスラエルは神さまのみこころを知りました。それで感動し、神さまに心から礼拝をささげたのです。



私たちクリスチャンにとっても、礼拝とは「ささげなければならないもの」である以上に「心からささげたいもの」なのです。そのように礼拝をささげられるようになるためには、聖書が分かること、説教(聖書のお話し)が理解できることが

必要です。神さまが聖書によって、説教を通してあなたに語りかけていることを知ったら、あなたは感動して神さまに感謝し、どんな困難(とてもむずかしいこと)の中でも礼拝をささげずにはいられなくなるでしょう。家庭礼拝では、聖書がよく分かるようにお父さんやお母さんに質問しましょう。日曜日の礼拝でも説教が理解できるように集中して聞きましょう。もし理解できないところがあれば牧師先生に質問しましょう。

◆お祈り

「聖書をしっかりと理解してあなたのみこころを知り、感謝をもって心からあなたを礼拝することができますように。」

(上総キリスト教会牧師 久保清人)

6月9日

テーマ：この時のため

聖書箇所：エステル記4：4～17

◆今日のみことば

「もし、あなたがこのような時に沈黙を守るなら、別の所から、助けと救いがユダヤ人のために起ころう。しかしあなたも、あなたの父の家も滅びよう。あなたがこの王国に来たのは、もしかすると、この時のためであるかもしれない。」

エステル記4章14節

◆メッセージ

神さまに大切な仕事を頼まれたら、あなたはどうしますか。ある時ペルシャの国で、ユダヤ人を皆殺しにするというおふれが出されました。その少し前、ユダヤ人はペルシャと戦って負け、このペルシャの捕虜にされました。しかし神さまを信じる心は少しも変わらず、天の神さま以外は拝みませんでした。そのユダヤ人に腹をたてた悪大臣ハマンは、王様に知られないように悪いおふれを出したのです。ユダヤ人はびっくりし、嘆きました。この苦しみから助かるたった一つの方法は、お妃であるユダヤ人のエステルさんが王様に、「ユダヤ人を助けてください」とお願いする道だけです。もし王様に聞き入れられなければ、エステルさんは殺されてしまうという厳しい法律があります。

しかし何もしなければ、ユダヤ人は皆殺しとなります。そしてこのユダヤ人の大ピンチを救えるのは、王妃エステルだけです。そこで全てのユダヤ人は3日の間、何も食べずに神さまにお祈りしました。エ



テルさんはどんな時にも助けて下さる神さまを信じ、死を覚悟で王様の前へ出て行きました。すると、王様はエステルさんの願いをすぐに聞き入れてくださり、ユダヤ人はエステルさんの勇気によって助かりました。神さまを愛する人を神さまは必ず守ってくださいます。



◆お祈り

「神さまが必要とされる時は、私に勇気を与てください。アーメン。」

(支援教師 吉持節子)

6月10日 テーマ：主は与え、主は取られる

聖書箇所：ヨブ記1章21節

◆今日のみことば

「私は裸で母の胎から出て来た。また、裸でかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。」

ヨブ記1章21節

◆メッセージ

あなたの宝物は何かな。宝物を持っている人は、それをみんなに自慢したくなるものです。

昔ウズと言う国にヨブさんという、正直ものがありました。ヨブさんはなにをするにも神さまに祈り、どんなに自分がしたいことでも、神さまがだめと言われればしませんでした。神さまは、そんなヨブさんを宝物のように愛しておられました。

すると悪魔はせせら笑い「なーに、ヨブがあなたを信じているのは、あなたがヨブに良くしておられるからです。もしヨブの財産を奪ってしまえば、彼はすぐにあなたを離れて行くでしょう。」と言いました。

すると神さまは悪魔に「よし。やって見よ。」とヨブさんを苦しめることを許されました。悪魔はヨブさんの家を大風でめちゃめちゃにこわし、彼の持っていたたくさんの家畜を全部奪い、7人の息子と3人の娘までも奪いました。ヨブさんはどんなに悲しかったでしょう！神さまはどうして私の家畜、私の家族、私の宝物を全部取ってしまわれたのか。と思ったかもしれせん。ヨブさんは、気づきました。人は生まれた時、丸裸で何も持っていないでました。失ったものは全部神さまからの預かりものばかりだったということに。そしてヨブさんは言います。「私は裸で母の胎から出てきた。また裸でかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。」（ヨブ記1章21節）と祈りました。悪魔はその後も、あの手この手でヨブさんを苦しめますが、ヨブさんは決して神さまから離れませんでした。次のお話が楽しみです。



◆お祈り

神さま。私たちも大事なものを失った時にも、決して神さまを離れないように守ってください。アーメン (支援教師 吉持章)

6月11日

テーマ：河馬を見よ

聖書箇所：ヨブ記40章15～24節

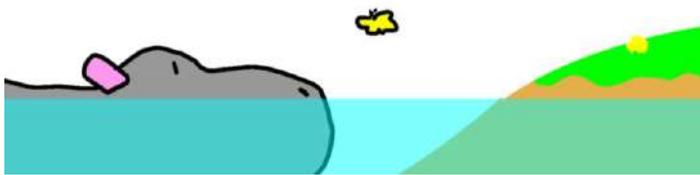
◆今日のみことば

さあ、河馬を見よ。これはあなたと並べてわたしが造ったもの、牛のように草を食らう。

ヨブ記40章15節

◆メッセージ

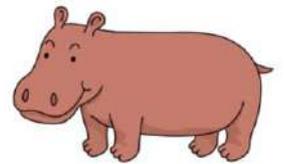
「さあ、河馬を見よ。」みなさんは、動物園で河馬を見たことがありますか。河馬は水辺でのんびりゆったりと暮らす草食動物といったイメージがありますね。東アフリカのムジマスプリングスというきれいな泉は、河馬もすんでいるすばらしい泉。そこはほんとうにきれいで、その水は飲めちゃうくらい。河馬は泳ぎながら水辺の木の実をあ



の大きな口をあけてむしゃむしゃバクバク「牛のように草を食らう」と書かれているように食べます。河馬のあとには魚たちが追いかけます。どうしてかって？そう、河馬のフンを待っているのです。魚たちは河馬のフンをえさにしています。だから泉はいつもきれい。「山々は、このために産物をもたらし、野の獣もみな、そこで戯れる。」

(40章20節)

「見よ。その力は腰にあり、その強さは腹の筋にある。」(40章16節)野生の王国・アフリカで人々が最も恐れる動物は、ライオンでもゾウでもありません。なんと河馬なんです。河馬はその見かけによらず、すごい能力の持ち主。体長3メートルを超えるナイルワニをくわえて軽々と投げ飛ばし、3トンほどの大きな体をずんぐりした短い足で支えています、時速30キロ、100メートルを9秒で走ることができます。また水中でも水上スキーに追いつくくらい速く泳ぐことができ、まさに水陸両用のスーパーボディーの持ち主。



「だれがわなにかけて、その鼻を突き通すことができようか。」(40章24節)そんな河馬の強さが最も発揮されるのが、オス同士の縄張り争い。ときにはどちらかが命を落とすことも。だから群れの主は縄張りや家族を守るため、必死で戦います。神さまはそんなすごい動物・河馬を創造されました。

こんなスーパーボディーの河馬をも支配される神さまがおられることと、私たち人間の小ささを覚えましょう。しかし、すばらしい神さまは、こんな小さな弱い私たちを河馬以上にいつも愛し、河馬以上の力を与えて用いて下さいます。

◆お祈り

天の父なる神さま、神さまのお力は人間にはどこまでも測り知ることができません。いつも私たちを愛し力を与えて用いてくださることを感謝します。

6月12日

テーマ：試練しれんと祝福しゅくふく

聖書箇所：ヨブ記き42章しょう1～17節せつ

◆今日のみことば

あなたには、すべてができること、あなたは、どんな計画けいかくも成し遂げられることを、  
私は知りました。  
ヨブ記42章2節

◆メッセージ

大きな地震おおじしんや津波つなみによって、家族かぞくや家いえ、持ち物ものすべてを突然とつぜんなくしてしまった人ひとたちがいます。かわいそうだし、どうしてそんなことが起こると、神かみさまに尋ねたずたくなります。

ヨブさんもそうでした。ヨブさんは、正しい人ただひとで神かみさまを敬うやまっていた人ひとでしたが、突然とつぜん、10人の子にんこどもやすべての持ち物ものを失うしない、自分じぶんも痛みいたのある病気びょうきになり、奥さんおくさんにも嫌きらわれて一人ひとりぼっちになってしまいました。ヨブさんには何か悪いことなにわるをしたと思おもい当たることあがありませんでした。でもヨブさんの三人さんにんのお友だちともは、「何か悪いことなにわるをしたから、こうなったのだ」と言いって、ヨブさんこまを困こまらせました。ヨブさんは神かみさまにもお友だちにも、「どうしてこんな試練しれん（辛い目つらめ）に会あうのか」と必死ひっしに訴うったえました。そんなやり取りとりの中で、ヨブさんは、いつしか、自分じぶんは何も悪いことなにわるをしていないのに、お友だちともは自分じぶんの苦しみくるしみを分わかってくれないし、神かみさまは、どうしてこんな試練しれんを自分じぶんに遭あわせるのかと神かみさまに不平ふへいを言いってしまいました。



神かみさまは、ヨブさんこまに語かたりかけてくださいました。神かみさまが世界せかいとそのすべてつくを造つくられたこと。宇宙うちゅうの天体てんたいの動きうごきから、動物どうぶつの出産しゅつさん（赤ちゃんあかが生まれること）や食うべもの物もののことまで、神かみさまが一番いちばんふさわしく導みちびいてくださっていること。神かみさまのお言葉ことばを聞きいて、「あなたには、すべてができること、あなたは、どんな計画けいかくも成し遂げられることを、私わたしは知りました」と、ヨブさんこまは神かみさまをよく分わかるようになりました。同時にヨブさんこまは、自分じぶんは何も知らないのに、知しっているかのように振舞ふるまって、神かみさまの前まえに「高たかぶって」いたこときに気づききました。これが、試練しれんの中なかで与あたえられたヨブさんこまに対する神かみさまの祝福しゅくふくだったのです。ヨブさんこまは神かみさまをその目めで見みたかのように分わかり、神かみさまの前まえにへりくだりました。こうして、ヨブさんこまはヨブさんこまを困こまらせた三人さんにんのお友だちとものためにとりなしの祈いのりに導みちびかれ、新あらたな家族かぞくや持ち物ものを二倍にばいに増ふやされて神かみさまのお恵めぐみを得えたのです。この神かみさまの前まえに、へりくだっていきましょう。



◆お祈り

「私わたしたちも試練しれんにあった時ときに、そのわけが分わからなくても、すべてを造つくられ、見守みまもっておられる神かみさまを信しんじて従したがうことができますように。」  
(沼南キリスト教会しんなん牧師まも 倉沢正則)

6月13日

テーマ：主の教えを喜ぶ

聖書箇所：詩篇1章2～3節

◆今日のみことば

まことに、その人は主のおしえを喜びとし、昼も夜もそのおしえを口ずさむ。その人は、水路のそばに植わった木のような。時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は、何をしても栄える。

詩篇1篇2～3節

◆メッセージ

植物を育てたことがありますか。あさがお？ひまわり？毎日、することがありますね。そう、水やりです。水がなければ植物は育ちません。たとえ砂漠でも、水のほとりに植え替えられた木なら、大きく育て、その時になれば実がなります。いつも水があるので、葉が落ちないのです、すごいですよね。

人間も同じです。私たちも、神さまの教えが豊かにある、聖書のそばに植え替えられれば、大きく育ち、その時が来れば愛の実を一杯実らせることができます。どんな時でも、神さまの言葉によって慰められ、喜ぶことができます。そして神さまはこちらの道が、あなたにとってよい道ですと、進むべき方向も教えてくださるのです。



神さまはあなたが喜んで一日を過ごせるように、聖書の言葉によって教えてくださっています。その大切なことに気がついた人は、どんな時でも昼も夜も、神さまの教えを思い出すことができますよ。

さあ今日も一日、神さまの愛に包まれて喜んで安心して一日を過ごしましょう。さあ元気にいってらっしゃい。



◆お祈り

神さま今日の朝も、私を愛して、慰めの言葉を聞かせてくださり、この道に歩みなさいと教えてくださったことを感謝します。今日も一日神さまと共に歩めますようにお助けください。

(銚子キリスト教会牧師 辻村潤治)

6月14日

テーマ：平安な眠り

聖書箇所：詩篇4篇8節

◆今日のみことば

平安のうちに私は身を横たえ、すぐ、眠りにつきます。主よ。あなただけが、私を安らかに住まわせてくださいます。詩篇4篇8節

◆メッセージ

「お母さん、電気消さないでね」。子どもころのボクは、寝る前にいつもこうお願いました。夜の暗さはボクには怖かったのです。



「遠足」や「運動会」の前の夜は、興奮して眠れませんでした。うれしいことがあっても、反対に悲しいことがあっても、眠れないのは、私たちが人間だからでしょう。心がいろいろな思いでいっぱいになってしまうからです。

眠れない時もあるかもしれませんが、夜の眠りは大切です。夜の眠りの中で、一日の心と体の疲れが回復します。夜の眠りのうちで、成長する力があふれます。次の日の元気の源は、夜の眠りにあります。

どうしたら、私たちはゆっくり、スヤスヤ眠ることができるでしょう。

お母さんに抱かれている赤ちゃんを見てください。スヤスヤ寝ているでしょう？なぜならお母さんのあたたかい腕に抱かれているから安心なのです。

1節でダビデは「あなたは、私の苦しみのときにゆとりを与えてくださいました。」と歌っています。「心のゆとり」が私たちには必要で

す。神さまは、いろいろな思いでいっぱいになった心に、安心を与えてくださいます。

私たちも苦しいとき、悲しいときに、神さまにお祈りしましょう。神さまはあなたをしっかりと抱き、大きな愛のなかで包み込んでくださり、安らかな眠りを与えてくださいます。



◆お祈り

神さま、今晚もあなたの愛の御手の中で、すこやかな眠りを与えてください。そして朝、元気に起き上がることができますように。

(いのちの泉聖書教会牧師 青木比郎)

6月15日

テーマ：主は羊飼しゅ ひつじかい

聖書箇所：詩篇しへん べん23篇

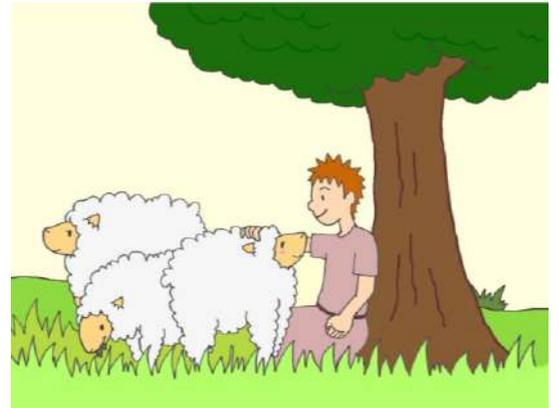
◆今日のみことば

主しゅは私わたしの羊飼ひつじかい。私わたしは、乏とぼしいことがありません。

詩篇しへん べん せつ23篇1節

◆メッセージ

イスラエルの人々ひとびと だいすが大好きなダビデさんは、王おうになるまで羊ひつじを飼かっていました。だから羊ひつじのことを良く知よっていました。羊ひつじは羊飼ひつじかいといっしょにいれば、おいしい青草あおくさ みず すも水すも好きなだけ食たべたり、飲のんだりできるのです。しかし、羊ひつじは迷まよいやすい動物どうぶつで、時々勝手ときどきかってにどこかへ入り込んでしまうのです。私わたしたちも羊ひつじとどこか似にていますね。羊ひつじが間違まちがった所ところに迷まよい込んだ時には、羊飼ひつじか



が正ただしい道みちに導みちびき、群むれに連れ戻つ もどしてくれます。羊飼ひつじかいは、夜よるには獅し子しや熊くまなどに襲おそわれる心配しんぱいのない場所ばしょに導みちびき、堅かたい杖つえを持もって守まもってくれます。だから、羊ひつじは安心あんしんして良く眠ねむることができますね。



この詩の作者ダビデさんも、そんな羊ひつじと羊飼ひつじかいの関係かんけいが人間にんげんと主しゅなる神かみさまの関係かんけいと同じだ、と思おもいました。王おうさまとして色々いろいろ たたかをし、危き険けんな目めにあつても、神かみさまの前まえに出て、覚おぼえているみことばを暗あんしやう唱いし、お祈かみりをし、神かみさまとともあゆに歩あゆみました。だから、たくさんの敵てきに囲かこまれていても、神かみさまが共ともにいてくださるので、王おう宮きゆうで宴えん会かいを

している時ときと変かわらずに食しょくじ事を楽たのしめました。敵てきを前まえにしても、心しん配ぱいない！私わたしたちも神かみさまの力ちからを信しんじていれば、安あんしん心しんして生いきてゆけますね。神かみさまの恵めぐみはあふれています。

この恵めぐみは、ずつと受うけたいですね。最さい後ごの節せつで「私わたしの日ひの限かぎり」と言いっていますが、それは一いっしやう生あいだの間かん、神かみさまの恵めぐみが私わたしを離はなれないという信しん仰ごうの確かく信しんを告こ白はくしているのです。そんな神かみさまの恵めぐみに答こたえるために、ダビデさんはこの詩の終しわりおに、自じ分ぶんの思おもいを告こ白はくしています。「私わたしは、いつまでも主しゅの家いえに住すまいましよう」と。私わたしたちも、どこに居ある時ときにも、神かみさまと共ともに居あることを願ねがい、安あんしん心しんして歩あゆみましょう。

◆お祈り

「私わたしも弱よわく迷まよいやすい羊ひつじのようなものである、ダビデ王おうさまのように信しん仰ごうを持もち続つづけ、いつも神かみさまに従したがって居あるよまもうように、守まもり導みちびいてください。」

(市原平安教会牧師 信太紀二)

6月16日

テーマ：いつも主への賛美

聖書箇所：詩篇34篇1節

◆今日のみことば

わたしはあらゆる時に主をほめたたえる。私の口には、いつも、主への賛美がある。詩篇34篇1節

◆メッセージ

今日の聖書の箇所は、ダビデさんがサウル王からいのちをねらわれて、逃げている時に歌われました。ダビデさんが別の町に逃げた時に、そこでもいのちの危険を感じ、やっとの思いでその町から逃げることができました。そのような大変な時にも、ダビデさんは主なる神さまをほめたたえたのです。

私たちの生活にも、うれしい時や楽しい時もあれば、反対に、苦しい時やつらく悲しい時もありますね。良い時

には賛美しやすいかもしれませんが、悪い時には賛美したくない気持ちにな

るかもしれません。けれども、ダビデさんはあらゆる時に、良い時だけでなく

悪い時にも、主をほめたたえました。いのちの危険の中で逃げ回っている

時にも、ダビデさんの口にはいつも主への賛美があったのです。ダビデさん

は大変な時こそ、神さまを覚え、神さまに祈り、そして賛美しました。賛美

は私たちの祈りでもあります。賛美することを通して、私たちは神さまを

覚え、神さまと交わり、神さまから慰めや励ましや新しい力をいただく

ことができます。



私は以前、疲れてしまって、心が落ち込み、何もする気がしない時を経験しました。その時、ゴロンと寝ころび、

賛美のテープを何度も何度も聞きました。すると、賛美の歌詞が私の心に入って来て、私の心を慰め、励まし、

新しい力で満たしてくれたのです。そして、最後のほうでは賛美のテープに合わせて、一緒に口ずさみ、元気がわ

いてきて、また立ち上がることができました。その時、主を賛美することのすばらしさを感じるようになりました。

あなたも大変な時を過ごすこともあるかもしれません。でも、そのような時こそ神さまを賛美しましょう。最初は

賛美を耳で聞き、目で読むことからかもしれません。賛美を通して、神さまはあなたに新しい力を与えてくださる

ことでしょう。そして、立ち上がり、さらに神さまを賛美する生活を続けることができるでしょう。

◆お祈り

「神さま。私がダビデさんのように、あらゆる時に主をほめたたえる人となれますように。」

(波崎キリスト教会牧師 石原伸光)

6月17日

テーマ：真昼のように輝く

聖書箇所：詩篇37篇5～6節

◆今日のみことば

あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ。主が成し遂げてくださる。主は、あなたの義を光のように、あなたのさばきを真昼のように輝かされる。詩篇37篇5～6節

◆メッセージ

私たちの歩む人生という道には、ときに、悩みや苦しみがありません。そういうとき、私たちはどうすればよいのでしょうか。



5節に「あなたの道を主にゆだねよ。」とあります。ゆだねるというのは、もともと「転がす」という意味のことばです。私たちの抱える悩みや苦しみを転がして、神さまの前に持っていき、そして、その悩みや苦しみを、神様にお任せしてしまおう。それがゆだねることです。私たちが自分の道を神さまにゆだねるならば、6節にあるように、神さまは私たちが真昼のように輝かせてく

ださるのです。人生にはいろいろな出来事がありますが、聖書は、それらのものすべてを、神さまにお任せしなさいと教えています。

この詩篇はダビデさんが書いたと言われています。ダビデさんは若いとき、サウル王からいわれのない罪を着せられて、長い年月逃げ回らなければなりません。やがてダビデさんに、サウル



ル王を倒せるチャンスがおとずれました。ここでサウル王を殺してしまえば、長い逃亡生活を終わらせることができます。でもダビデさんはサウル王を殺しませんでした、なぜなら、すべてを神さまのさばきにゆだねていたからです。やがて神さまはさばきをなさって、サウル王は戦争で死にました。そしてサウル王に代わってダビデさんがイスラエルの王となったのです。

ダビデさんが神さまにすべてをゆだねたとき、神さまがダビデさんの苦しみを負ってくださったのです。ダビデさんは王となり、その正しさ、そのさばきは、真昼のように輝きました。このように神さまにゆだねる信仰を持つことを、神さまは私たちに願っておられるのです。

私たちが神さまにゆだねるならば、神さまは私たちに助けてくださり、さらに私たちが真昼のように輝かせてくださるのです。この、すばらしい聖書の約束を心に刻みましょう。

◆お祈り

「自分の力で、自分の考えで、何でもしてしまいたくなる思いから私たちを守ってください。どんなことも、神さまにゆだねることができますように。」

(墨田教会牧師 小澤謙)

6月18日

テーマ：神こそわが岩

聖書箇所：詩篇62篇1～2節

◆今日のみことば

私のたましいは黙って、ただ神を待ち望む。私の救いは神から来る。

神こそ、わが岩。わが救い。わがやぐら。私は決してゆるがされない。

詩篇62篇1～2節

◆メッセージ

みなさんにとって神さまはどのような存在でしょうか。この詩篇では、神さまは岩のようだと言っています。大きな岩を想像してみてください。固くて強くて、がっしりとして、いくら押ししてもびくともしない、そんな大きな岩です。また、神さまはやぐらのようとも言っています。やぐらはお城や街を守るためにある見張り台、あるいは災害などから避難できる高く安全な場所のことをいいます。つまり、神さまは強く、がっしりした岩のように頼もしいお方で、神さまのそばはやぐらのように安全で安心できる場所だとたとえているのです。たとえ苦しくて、自分ではどうしようもないくらい大変な状況の中にあっても、強くて頼もしい神さまが助けてくださる。安全に守ってくださる。だから、大丈夫。不安になってオロオロすることはないのです。ただただ神さまだけを信じて、神さまを待ち望めばいいということです。



ですから単におしゃべりを止めて、口を閉じるということではありません。心の底から静まって、神さまだけを頼りにして、神さまの助けをじっと待つのです。



みなさんにとって神さまは、この詩篇のようにいちばん頼りになる存在、安心できるお方でしょうか。生まれたばかりの赤ちゃんがいちばん頼りにしていて、安心できる存在はお母さんだといえます。まるで赤ちゃんがお母さんのそばで安心しきってスヤスヤと休むように、みなさんにとって神さまはいちばん頼もしくて、安心して身を任せることができる、そういうお方なのです。ですから、いつでも神さまを信頼していきましょう。

◆お祈り

「神さまは いちばん頼もしくて安心できるお方ですから、いつでも、どんなときでも、神さまを信頼していくことができますように。」

(墨田教会伝道師 小澤優子)

6月19日

テーマ：知恵の心

聖書箇所：詩篇90篇10～17節

◆今日のみことば

それゆえ、私たちに自分の日を正しく教えることを教えてください。

そして私たちに知恵の心を得させてください。

詩篇90篇12節

◆メッセージ

今朝、目がさめたとき、どんな気持ちでしたでしょうか。「よし。新しい一日が始まったぞ」でしょうか。それとも「やれやれ、また一日が始まった。面倒くさいな」でしょうか。それでは今夜、どんな気持ちで床につくでしょうか。「きょうもいい一日だった」でしょうか。それとも「いいことなんか何もなかった。イヤな一日だった」でしょうか。同じ一日を過ごしても、ずいぶん違った一日です。嬉しい一日か、それとも面倒くさい一日か。ずいぶん違います。

神さまは、楽しく喜んで過ごすようにと、きょうという一日を与えてくださいました。きょうという一日は、神さまからいただいた素晴らしいプレゼントです。それは、自分に与えられた大切な一日です。だから自由に何でもすることができます。嬉しいことです。けれども好き勝手なことをして、あとで「もっとこうしておけばよかった」と後悔するのでは残念です。嬉しい一日を過ごすためには、神さまといっしょに歩もうとすることが大事です。神さまがいっしょなら、小さくても素晴らしい一日になるでしょう。



忘れてはならないのは、私たちはいつか死ぬということです。死ぬまでにどれくらいたくさん一日が与えられるのでしょうか。私たちにわかりません。自分の一生は長いのか、それとも短いのか。私たちにわかりません。だから、一日一日を、大切に生きることです。そのためには神さまといっしょに歩むこと。それは神さまからの語りかけを聞くことです。聖書のみことばを心に覚えることです。そうすると、心は神さまの知恵でいっぱいになります。

きょう一日の辛いことや、悔しいことに負けることはありません。いっしょにいる神さまが、心に知恵を与えてくださいますから、どうしたらいいのかわかるからです。みことばを心にとめて神さまの語りかけを聞く人は、「よし。新しい一日が始まった」と元気に一日を始められます。そして「きょうもいい一日だった」と感謝して、一日を閉じることができます。みことばを心にとめる人は、そういう嬉しい毎日を過ごすことができます。

◆お祈り

「今日という大切な一日を感謝します。今日も、神さまの知恵を与えてください。」

(下北沢聖書教会牧師 山口譲)

6月20日

テーマ：主はいつくしみ深い

聖書箇所：詩篇100篇1～5節

◆今日のみことば

主はいつくしみ深くその恵みはとこしえまで、その眞実は代々に至る。

詩篇100篇5節

◆メッセージ

教会の礼拝に行くとき、「いやだなあー。友だちと遊びたいのに」と思ったりしたことはありませんか。そんな私たちに、神さまは語りかけてくださっています。

「主に向かって喜びの声をあげよ」「喜びをもって主に仕えよ」「喜び歌いつつ、御前に来たれ」（1、2節）・・・だから、いやいや

ながら礼拝するのは、本当の礼拝ではありません。どうしたら喜んで礼拝できるでしょうか。

私たちが礼拝する神さまのこと、考えてみましょう。天と地、そしてこの宇宙をつくられ、私たちをも造られた神さまです。毎朝、新しいのちを与えてくださる神さまです。私たちがイエスさまの十字架によって、罪から救ってくださり、赦してくださったお方です。私の失敗も、神さまが喜ばれないことをしてしまったことも全部知っておられて、羊飼いさんのように正しく導いて、愛してくださる神さまです。神さまから「あなたは私のもの」と言ってもらえることは、どんなに多くの友だちがいることよりも、いろいろな物を持っていることよりも、みんなの人気者になることよりも、大きな喜び、感謝なことです。世の中のものはずべて変わっていきます。お友だちとの友情も変わる場合があります。



しかし、「神さまのいつくしみと恵みと眞実はいつまでも変わらない」のです。2000年前に、私たちの罪の身代わりとなられ、神さまのひとり子イエスさまが十字架で死なれました。神さまは、2000年の間、変わらない十字架の愛をもって、私たちが愛し続けておられるのです。

「神さま、私はあなたの者です。」とお答えし、喜んで神さまに感謝し、神さまをほめたたえ、賛美をささげましょう。

◆お祈り

「礼拝を通していつくしみ深い神さまをさらに深く知ることができますように。さらに感謝をささげることができますように。」

(支援教師 増田清世)

6月21日

テーマ：主の良くしてくださったこと

聖書箇所：詩篇103篇1～5節

◆今日のみことば

わがたましいよ。主をほめたたえよ。主の良くしてくださったことを何一つ忘れるな。

詩篇103篇2節

◆メッセージ

小さなお友だちも、大きなお友だちも、そして大人にだって、辛い事や悲しい事がたくさんあります。けがや病気、失敗や間違い。一生懸命お祈りしたのに、一生懸命やったのに、だめだった。なぜ？どうして？って思います。けがや病気なんか、失敗や間違いなんか、なければいいのに。元気で何でもできればいいのに。うまくいって、間違いがなければいいなあ、と誰もが思います。でも、けがや病気になる時があるから、「元気で、何でもできることはすばらしいなあ」とわかるでしょう。失敗や間違いがあるから、うまくいった時やじょうずにできた時の喜びが大きくなるのです。

私たちはけがや病気の事、失敗や間違いの事は、思い出すことができますが、元気なこと、うまくできたこと、間違えなかったこと、普通のことは忘れてしまいます。当たり前、とってしまいます。当たり前、と思うと、感謝も喜びもありません。でも、私が生きていること、は当たり前ではありません。神さまが、私たちに必要なものは与えてくださっています。私たちが生きるために必要なもの、空気も水も、食べ物も着る物も。家も学校も。家族やお友だちも…。数えたらきりがありません。イエスさまの十字架の救いによって、罪をゆるしていただきました。イエスさまのお名前によって、神さまにどんなことでも祈ることができます。神さまがいつもそばにいてくださいます。こんなにたくさんすばらしいことがあるのに、当たり前、とっていませんか。神さまに感謝していますか。神さまの恵みを忘れて、文句ばかり言っていないですか。



神さまがしてくださったことを、一つ一つ数え上げて感謝しましょう。「神さま、〇〇〇〇をありがとうございます。」

そして、それを忘れないで神さまに感謝すること、神さまをたたえることが、とても大切です。

◆お祈り

神さまは私に、いつも良いものを与えてくださいます。必要なものを与えてくださいます。それを数えて、心から感謝します。

(椎名町教会牧師 小林伊佐美)

6月22日

テーマ：自分の道をきよく保つ

聖書箇所：詩篇119篇9節

どのようにして若い人は自分の道をきよく保てるでしょうか。あなたのことばに従ってそれを守ることは、詩篇119篇9節

◆メッセージ

今日、私たちが神さまに喜ばれる一日を歩むにはどうしたらいいでしょうか？答えは簡単です。神さまのおことばを守って、その通りに生きることです。はい、その通り。でも、それを実行しようとすると、そう簡単ではありません。だから「心を尽くして、尋ね求め」(10節)なければなりません。遊びながらではできません。余裕のある時に、適当な力で、自分勝手にやるのではなく、毎日、寝ても覚めても、何かをするたびに、自分の持っている力の限りを尽くして、神さまによく聞いて、神さまから力をいただいているのです。具体的には、みことばの意味を深く考え(15)、暗唱し(11)、人々に教え(13)、自らも実践することを最高の喜びとする(14)ということです。みことばを暗唱することは、大切ですね。いつも、みことばを思い出すことができますから。神さまに喜ばれないことをしそうなとき、みことばを思い出して、やめることができます。悲しいとき、がっかりするとき、みことばを思い起こして、力がわいてきます。そのようにして、毎日毎日生きることができます。



このような生き方を思う時、「自分はまだまだ」と思うことでしょうか。きょうのみことばに出くる「若い人」とは歳のことを言っているわけではありません。自分の力では到底神さまの望まれるように生きられない「未熟な人」のことです。年齢は関係ありません。みんな未熟な「若い人」なのです。ですから、今日もお互いのために祈って、神さまから力をいただいて、みことばの意味を深く考え、暗唱し、人に教え、自ら実践することを喜びとする幸いな人として生きていきましょう。

◆お祈り

「今日も、全力で神さまのことばをきいて、従うことができるように、力をください。」

(赤羽聖書教会牧師 野寺恵美)

6月23日

テーマ：みことばは足の<sup>あし</sup>ともしび

聖書箇所：詩篇<sup>しへん</sup>119篇<sup>へん</sup>105節<sup>せつ</sup>

◆今日のみことば

「あなたのみことばは、<sup>わたし</sup>私の<sup>あし</sup>足の<sup>あし</sup>ともしび、<sup>わたし</sup>私の<sup>みち</sup>道の<sup>ひかり</sup>光<sup>ひかり</sup>です。」詩篇<sup>しへん</sup>119篇<sup>へん</sup>105節<sup>せつ</sup>

◆メッセージ

皆さんは山奥のキャンプ場に行ったことがありますか。そういうキャンプ場は、夜になると何も見ないくらい真っ暗。高いビルなどがいないから夜のイルミネーションはありません。また山道には街灯もありません。でも、お天気の良い夜は、月が輝いていたり、こんなに星があったのかしらと思うほど夜空いっぱい星がキラキラまたいたりします。



しかし夜、キャンプ場の山道を歩くには懐中電灯が必需品！なぜなら月と星の明かりだけでは、そのでこぼこ道にはどこに石があり、どこに穴ぼこがあるのかまったく分からないからです。そんなときに懐中電灯でパッと照らせば、自分が歩く道の様子がよく分かり、安心して安全に歩くことができます。

今日のみことばは、<sup>かみ</sup>神さまのみことば（<sup>せいしょ</sup>聖書）というものは、まさに私たちの毎日の生活を歩んで行くときの足の<sup>あし</sup>ともしび（<sup>かいちゆうでんとう</sup>懐中電灯のように<sup>でんち</sup>電池が切れてしまうことのない、<sup>かんぜん</sup>完全な、<sup>き</sup>消えることのないあかり）であり、<sup>わたし</sup>私のこれから<sup>あゆ</sup>歩いて行く<sup>しょうらい</sup>将来の道を照らしてくださる<sup>ひかり</sup>光（お天気が悪いと見えなくなってしまう<sup>つき</sup>月や<sup>ほし</sup>星のような<sup>ひかり</sup>光ではなく、いつもどんなところでも<sup>て</sup>照らしてくださる<sup>ひかり</sup>光）だと書かれています。

「ああ、もう私はだめだ」というようなつらいときも、「あれっ！これから先どっちを選んだらよいのだろう」と心配し悩むときも、みことばをいっぱい心にたくわえていると、神さまがそのみことばを用いて導いてくださるので、安心して歩いていくことができるのです。

◆お祈り

「神さま、あなたのみことばは私の毎日を照らしてくださるともしび、またこれからの将来を照らしてくださる光であることを感謝します。」

（南柏聖書教会伝道師 菊池真恵美）



6月24日

テーマ：苦しみにあったことは

聖書箇所：詩篇119篇65～72節

◆今日のみことば

苦しみに会ったことは、私にとってしあわせでした。

私はそれであなたのおきてを学びました。

詩篇119篇71節

◆メッセージ

「しあわせだなあ。」と思うのはどんなときですか？（子どもたち、答えてね。）家族や好きな人たちと過ごすとき、好きなものがあるとき、好きなことをしているとき、などですね。

苦しいことがあるのに、しあわせだなあ、なんて思えませんね。病気やけがで苦しい思いをすること、お友だちとうまくいかないこと、したくないことをしなければならいこと、など・・・苦しいことはいやなこと、です。それなのに、「苦しいことがしあわせになるって、どういうこと？」とおもいませんか。

苦しいことがしあわせになるのは、その苦しい経験をとおして、神さまのこともっと知ることができるようになるからです。苦しいとき、神さまに祈ります。楽しいことばかりだと、祈らないこと、あるでしょう？それでは、神さまとの交わりがうすくなってしまいます。でも、苦しいことがあると、神さまに真剣に祈ります。「神さま、助けてください！」と。神さまは、その祈りにこたえてくださいますよ。



苦しいとき、どうしたらいいんだろう、神さまが助けてくれないだろうか、とみことばを読みま

す。普段は自分で思ったとおりにしてしまっているのに。なんでも、自分の思い通りにしたいのに。

でも、苦しいと、神さまに聞きます。「神さま、教えてください！」と。神さまは、私が間違っ

ことをしていたことも、教えてください。そして、みことばをとおして、どうしたらいいのかも、みことばに従うことの祝福も教えてください。

神さまは苦しみの中でも守ってくださいます。「ああ、神さまのみ

ことばは本当なんだ、神さまは私の祈りに答えてくださるんだ、神さまは私のこと愛していてくださるんだ」と、嬉しくなります。神さまと共に歩むことになります。だから、しあわせです。

苦しいことは不幸なこと、ではありません。苦しいときこそ、神さまに祈りましょう。苦しいときこそ、みことばを求めましょう。そして、しあわせを味わって生きましょう。

◆お祈り

「神さま、苦しみのときだけでなく、いつでも、祈り、みことばに聞いて、しあわせに生きることができるよう。」（習志野台キリスト教会牧師 丸山園子）



6月25日

テーマ：私の助けはどこから

聖書箇所：詩篇 121 篇 1～8 節

◆今日のみことば

私は山に向かって目を上げる。私の助けは、どこから来るのだろうか。

詩篇 121 篇 1 節

◆メッセージ

皆さんは困ったとき、悲しいとき、苦しいとき、どうするでしょうか？ いろいろな悩んで、お父さんやお母さん、お友だちに相談するかもしれませんね。きっといろいろなアドバイスをしてくれたり、力を貸してくれたりするでしょう。それでも解決しないこともあるかもしれません。

詩篇 121 篇 2 節には「私の助けは、天地を造られた主から来る。」というみことばがあります。それは、いつも私と一緒にいてくださる神さまがどんな時でも必ず助けてくださるとのお約束なのです。神さまは私を守ってくださるお方です。「昼も、日が、あなたを打つことがなく、夜も、月が、あなたを打つことはない。」(121:6)。もしかしたら暗い夜が、怖いお友だちがいるかもしれませんね。でも暗い夜の間に、明るい昼の間に、いつでもずっと神さまは私と共にいて守ってくださる、と約束して下さっているのです。



「主は、すべてのわざわいから、あなたを守り、あなたのいのちを守られる。」(121:7)。そして神さまはすべての悪いことから私たちを守ってくださるのです。どんなに苦しくて周りに逃げ道がないように思えるときにも、上を見上げて神さまにお祈りする時、必ず神さまが御手を伸ばして私たちを守ってくださいます。その約束は永遠の約束です。どんな時でも助けて下さる神さまが、いつもみんなと一緒にいてくださるのです。

◆お祈り

「どんなに困った時でも神さまと一緒にいてくださり、助けてくださることをありがとうございます。神さまを見上げて歩むことができますように。」

(中野教会伝道師 河村真理)



6月26日

テーマ：主を恐れる人の祝福

聖書箇所：詩篇 128篇 1～6節

◆今日のみことば

さいわ しいなことよ。すべて主を恐れ、主の道を歩む者は。 詩篇 128篇 1節

◆メッセージ

ここでは、どのような人が幸せなのか、その幸せな人がどんな祝福を受けるかがうたわれます。

どのような人が幸せでしょうか。それは「主を恐れ、主の道を歩む者」です（1節）。「主を恐れ、主の道を歩む」とは、人間が自分のやりたい放題や、自分中心に生きるのではなく、神さまを中心にして生きることを意味しています。神さまよりも、人のことを恐れることはありませんか。

「主を恐れ、主の道を歩む者」は、どんな祝福を受けるのでしょうか。まず自分が祝福を受け、家族が祝福を受け、まわりの人に祝福をもたらす人になります。

まず、自分が神さまに祝福されます（2節）。イスラエル人は自分で稼いだお金で自分と家族を養うのが一番良いと考えました。特に、昔は自然災害や戦争が多かったので大変です。でも、「主を恐れ、主の道を歩む者」は、神さまが守ってくださいます。

次に、その人の妻も「豊かに実を結ぶぶどうの木」のように祝福を受けます（3節前半）。イスラエル人にとってぶどうは祝福の証しです。「主を恐れ、主の道を歩む者」は、その妻がしっかりと家を守り、貧しい人に助けの手を差し伸べるなど、妻は多くの良い働きをするというのです。

祝福は子どもたちにも及びます（3節後半）。「食卓」は礼拝する場でもあります。子どもたちはそこでみことばを学びます。「オリーブ」は冬にも葉が落ちない常緑樹で、生命力の象徴です。子どもたちは、食卓で神のことばを学びながら、世の誘惑に負けずに、強くたくましく成長します。



5節と6節を見ると、家庭の祝福は、エルサレム、イスラエルと、場所を越えて広がることが分かります。そして、「あなたの子らの子たちを見よ！」と時間も超えて、未来に向かってあふれ流れるというのです。「エルサレム」は、神を礼拝する神殿がある場所で、「教会」のような所です。教会も国も、「家庭」がその原型、もとの形です。国も教会も家庭も、その中心にあるのは神さまです。

こんなにすばらしい祝福！神の子であるみなさんが、「主を恐れ、主の道を歩」んで、神さまに祝福され、まわりの人たちに神さまの祝福をもたらすように祈ります。

◆お祈り

「神さま。いのちの主なるあなたをたたえます。『主を恐れ、主の道を歩む』よう助けてください。主の御名により祈ります。アーメン。」

(赤羽聖書教会牧師 野寺博文)

6月27日

テーマ：一つひとになって共にともす住むこと

聖書箇所：詩篇しへん133篇へん1～3節せつ

◆今日のみことば

みよ。兄弟きょうだいたちが一つひとになって共にともす住むことは、なんとたのいうしあわせ、なんとたのいう楽しさたのであろう。詩篇しへん133篇へん1節せつ

◆メッセージ

休みやすや祝しゅくじつ日に、遠とおいところに離はなれていた家族かぞくが家いえに戻もどって来て、しばらくでも共にともす住むことになった時ときの嬉うれしさ、楽たのしさを経験けいけんしたことがあるでしょうか。あるいは、遠とおいところの親戚しんせきが訪たずねて来て、一いっしょ緒しよに過すごすことができた時ときの喜よろこびを味あじわったことがあるでしょうか。愛あいする家族かぞくや、親したしい仲間なかまがあつまって、一いっしょ緒しよに神かみさまを礼れいはい拝はいしながら生いきるのは、とてたのも楽たのしく、嬉うれしいことです。



家族かぞくは、神かみさまがこの世せかいを造つくられた時ときから定さだめてくださった、すばらしい制度せいどです。家族かぞくが共にとも愛あいし合あいながら、助たすけ合あいながら住すむこ

とがあまりにも祝しゅくふく福ふくされたことなので、昔むかしから家庭かていは「小ちいさな天てん国ごく」ともいわれて来きました。今いま、世界せかいで、戦せん争そうや国くにの事じ情じょうで家族かぞくが離はなればなれになるとか、家族かぞくの間あいだでも喧けん嘩かをしたたがり、互にくいに憎おおしみあつたりするこざんねんとが多いのは残ざん念ねんなことすです。

家族かぞくの中なかで喧けん嘩かしたままになっていませんか。兄きょうだい弟けんか喧けんか嘩かをしたあ後あとに、仲なか直なりしていますか。家族かぞくが互たがいに愛あいし合あい、助たすけ合あい、赦ゆるし合あって、こころがひと一ひとつになるように神かみさまに祈いのらないければなりません。祈いのったあ後あとには、そどうなりように努どり力りょくしましよう。

◆お祈り

「神かみさま、この世よで家族かぞくが強きょう制せい的てきに離はなればなれにならないように、家族かぞくが互たがいに愛あいし合あうことができるようにしてください。」

(南アフリカ宣教師 金 煥)

6月28日

テーマ：とこしえの道に

聖書箇所：詩篇<sup>しへん</sup>139篇<sup>へん</sup>1～24節<sup>せつ</sup>

◆今日のみことば

私<sup>わたし</sup>のうちに傷のついた道があるか、ないかを見て、私<sup>わたし</sup>をとこしえの道に<sup>みち</sup>導いてください。

詩篇<sup>しへん</sup>139篇<sup>へん</sup>1～24節<sup>せつ</sup>

◆メッセージ

詩人は、「神さま、私<sup>わたし</sup>の心<sup>こころ</sup>を知ってください。私<sup>わたし</sup>の心配<sup>しんぱい</sup>していることを分かってください。」と祈りました。でも、神さまはその人がそう祈る前から、その人のことをすべて知っていてくださるお方です。今までにどんなことをしてきたのか、今何をしようとしているのか、これからどうなるのか、神さまは私<sup>わたし</sup>たちのことを何もかも知っておられます。小さい子どもはよく「ねえ、見て」と言います。見られていること、知ってもらうことがうれしく、安心<sup>あんしん</sup>なのです。でも少し成長<sup>せいちょう</sup>すると誰でも秘密<sup>ひみつ</sup>を持ち始めます。隠し事<sup>かくごと</sup>をしたり、知られたくないことが増えたりします。でも、神さまはそれも全部<sup>ぜんぶ</sup>知っています。私<sup>わたし</sup>たちのいいところも悪いところも、自慢<sup>じまん</sup>したいことも隠していることも、心の奥<sup>こころおく</sup>の奥<sup>おく</sup>にある、自分<sup>じぶん</sup>でも気づいていないことや知らないことさえも知っています。「そんな怖い<sup>こわい</sup>な、嫌<sup>きら</sup>だな」とお思いますか。秘密<sup>ひみつ</sup>にしたいのは、それが知られてしまったら叱<sup>しか</sup>られたり、嫌<sup>きら</sup>われたりするかもしれない<sup>おも</sup>と思うからでしょう。でも神さまは、私<sup>わたし</sup>たちの嫌<sup>きら</sup>なところやダメなところを知ったからといって、決して私<sup>わたし</sup>たちのことを嫌い<sup>きら</sup>になったりしません。聖書の神さまは、私<sup>わたし</sup>のいいところも悪いところも全部<sup>ぜんぶ</sup>知ったうえで、「あなたのことを何もかも愛<sup>あい</sup>している。」と本気で言うてくださるお方です。そんなお方が私<sup>わたし</sup>のことを何でも知っていてくれているということはホッとすることであり、うれしいのです。



詩人はそのことを知っているので「もっと私<sup>わたし</sup>のことを知ってください。」と祈るのです。神さまを心<sup>こころ</sup>から信頼<sup>しんらい</sup>し、自分<sup>じぶん</sup>のことが知られることを喜んで<sup>よろこ</sup>んでいるのです。そして「私<sup>わたし</sup>をとこしえの道<sup>みち</sup>に導<sup>みちび</sup>いてください。」とも祈ります。「とこしえの道<sup>みち</sup>とは神さまといっしょに歩いて行く道<sup>みち</sup>のことで、永遠<sup>えいえん</sup>の天<sup>てん</sup>の御国<sup>みくに</sup>に続<sup>つづ</sup>いているのです。私<sup>わたし</sup>を愛<sup>あい</sup>し、しかもよく知<sup>し</sup>っていてくださる神さまがいつもいっしょなので、いつまでも不安<sup>ふあん</sup>はないのです。

◆お祈り

「神さま、私<sup>わたし</sup>の心<sup>こころ</sup>を知ってください。いつも神さまといっしょに歩いてゆきたいです。」

(小竹町聖書教会牧師 北條輝)

6月29日

テーマ：主を恐れることは知識の初め

聖書箇所：箴言1章7節

◆今日のみことば

主を恐れることは知識の初めである。 箴言1章7節

◆メッセージ

私たちのまわりには、あたらしいもの、べんりなものがつぎつぎにあらわれます。世界をつなぐインターネット。人間のかわりに働いてくれるロボット。人が運転しなくても走る自動車。調べたいことを聞くと答えてくれるスマートフォン。どれもこれも驚くようなものですが、もっと驚くのはこれらのものを作り出すことのできる人間の力です。神さまが私たちに与えてくださった力はすばらしいものですね。

ところが、その力がよいことばかりに使われるとはかぎりません。うそをついたり、ごまかしたり、かくしたりするときに、私たちのあたまはよくはたらくのです。インターネットでほかのひとの悪口を書いたり、ロボットが戦争のためのどうぐにしたりと、ひとは与えられた知識を正しいことにでなく、悪いことに使ってしまうのです。

神さまは言われます。「主を恐れることは知識の初めである」。神さまが与えてくださった知識。それはまことの神さまを知ること、神さまを信じること、そして神さまを恐れることです。神さまを信じたときに、私たちはその知識をただしくあつかうことができるのです。

勉強ができること、テストで100点を取ることはとてもすばらしいことです。でも神さまを恐れることを忘れ、神さまのこたえを聞くことをやめてしまつては、せつかくの

知識をただしく使うことができません。

神さまを礼拝し、神さまのみことばによく聞き、神さまにつながっていることで、私たちは神さまからいただいた知識を、神さまと世界の人のためにお役にたてていただくことができるのです。

◆お祈り

「神さま、あなたのことをもっとよく知り、信じ、あなたを恐れることができるようにしてください。あなたがくださる知識をつかって、神さまと世界のためにはたらくひとにならせてください。イエスさまのおなまえによってお祈りします。アーメン。」

(徳丸町キリスト教会牧師 朝岡勝)



6月30日

テーマ：「三つ撚りの関係」

聖書箇所：伝道者の書4章9節～12節

◆今日のみことば

もしひとりなら、打ち負かされても、ふたりなら立ち向かえる。三つ撚りの糸は簡単には切れない。伝道者の書4章12節

◆メッセージ

たろうくんは、友だちのしんじくんといっしょにサッカーを習っています。しんじくくんはレギュラーでいつも試合に出ています。たろうくんも、がんばって練習しているのですが、しんじくんのようにはできません。



ある時、たろうくんはふと思いました。「もし、しんじがけがをして、試合に出られなくなれば、ぼくが試合に出られるのに・・・。」そう思った瞬間、はずかしくなりました。「ぼくは、しんじと友だちなのに、しんじがけがをすればいいと思っっているなんて。なんてきたないんだろう。」

日曜日、たろうくんは教会学校に行きました。その日のみことばは、「三つ撚りの糸は簡単には切れない」でした。一本の糸だと弱くてすぐに切れてしまうけれど、糸が二本、三本になると強くなって簡単には切れなくなるというお話でした。たろうくんは思いました。「ぼくは今までサッカーのために祈りしていなかった。祈りしたら、神さまがきっと助けてくださる。それに、神さまはぼくにしんじという友だちを与えてくださった。もし、しんじがいなかったら、ぼくはサッカーをつづけられなかったかもしれない。ぼくと神さま、そしてしんじで三本の糸だ。よし！これからは、サッカーのためにも祈りして、ぼくもしんじと試合に出られるようにがんばろう。」



あなたはどんなことをがんばりたいですか。ぜひ、がんばっていることのために祈りしましょう。神さまは、あなたのお祈りをきいてくださいます。それに一人では続けられないことでも、友だちのおかげで続けられることもあります。神さまは、あなたを助けるために友だちを与えてくださいます。あなたと神さま、そして友だち。これでかんたんに負けない「三つ撚りの糸」ですね。

◆お祈り

「天のお父さま。あなたがいっしょにいてくださいます。どうかがんばれるように助けてください。友だちも与えてください。」

(霞が関キリスト教会牧師 佐野泰道)